

模擬授業研究会の斉藤メモ(2019年10月23日)

授業者：〇〇

範囲：デフレ・インフレ

主な感想・代案

- 生徒に疑問を持たせようとしていることがよくわかります。(やや模擬授業の設定を意識したうえで前半と後半の授業の位置づけを分けて、前半で習得、後半で活用を促そうとしている点も分かります。全体を通して、授業者の意図がよく透けて見える授業構成になっていると思います。
- 感想ではデフレスパイラルに関する分かりにくさが集中していたかと思います。私個人としては、後半の発問4「デフレーションに対して政府ができることはなんだろう」に対して、しっかりと根拠のある形で生徒が意見をグループで言えるのかが気になります。とりわけ、個人で考える時間とグループで考える時間が分かれていないので、理由をサッと考えられない生徒の意見が押しつぶされる危険があると思います。
- ▣ 代案としては、個人で考える時間を一瞬でも設け、ワークシートに記入させること。さらには、選択肢の4つの数が多いので減らす方が生徒の思考が単純化される(負荷が減る)と思います。例えば、現状だとDを減らして三択にするのがありかなと思います。
- なお、「目標検証シート」の優先事項の欄で、「永続的な理解」が「デフレーションに対して4つの効果的な政策がある」となっていますが、これは違うような気がします。この授業を通して本当に伝えたい狙いはなんでしょうか？吟味してほしいところです。

【コラム】理論と実践の接点

〇〇君のように、ふつう生徒が思うであろう予想の逆を突いて驚かせることを「認知的不協和」を促す発問」と言います。こういう発問は、学習者に「なぜ？」と疑問を生み出したり、自主的な探究を促す上で有効です。有田和正は「なぜ疑問」「はてな」を大切に授業を作りました。また、森分孝治も「なぜ？」に基づく仮説を吟味させていくような授業設計が良いと考えました。こういった授業は、何らかの概念を獲得させる知識理解の授業にも有効だと思います。

一方で、こういった授業に起こりがちな批判がいくつかあります。批判の一つは、なぜ？という疑問は面白いけれども、その先の問題解決へのプロセスが難しいものになりがちだという点。この点を懸念して安井俊夫氏は「なぜ？」ではなく、「どのように？」と問うべきと論じています。批判の一つは、なぜ？という疑問の正解が暗黙裡に一つしか想定されておらず、生徒をその答えに誘導するような授業になってしまう点。本来はなぜ？という問いには、複数の「解釈」が存在するのに、「唯一の正解」のように提示されてしまう。その懸念に対して、複数の解釈を維持しながら、概念を探究させる授業論も提案されています。

【参考文献】

(1)有田和正『楽しい社会科授業の作り方入門』 (2)森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』 (3)安井俊夫『子どもが動く社会科——歴史の授業記録』 (4)岡崎誠司『見方考え方を成長させる社会科授業の創造』

模擬授業研究会の斉藤メモ(2019年10月23日)

授業者：〇〇

範囲：平等権

主な感想・代案

- 平等権について身近な事例を引き合いに出して、何が平等で何が平等でないのか？を考えさせようとしているのが分かります。
- 前半部分に関しては、私も一つの身近な事例（例えば女性専用車両、ベビーカー専用車両、外国人生徒だけ入試の点数制限を下げる例等）を紹介し考えさせることを導入とし、展開部分で本格的な論点に入っていく方が、流れとしてはスムーズな気がします。平等権の問題は、「何をもちて平等と言えるのか？」自体が不明瞭・論争的である点にポイントがあると私個人としては考えるためです。
- 展開部分に関して、4通りの内容を調べて発表させる内容になっています。技能を評価観点に選んだ授業として、生徒主体の学習を促すために計画したのだと思うのですが、現状のままだと、「何が平等なの？」という点を分析できる視点が育ちにくいいため、例えば、「目標検証シート」にある「日本は果たして国民に平等である対策をしているのか？」に根拠をもちて答えにくいと思います。
- 代案としては、例えば、「全員同じ条件で頑張っているのに、一部の〇〇の人だけ優遇されるのはおかしい」という意見に、あなたのグループではどう反論しますか？」という問いを設定します。
- どれか一つの差別について一時間掘り下げたうえで、次の時間でほかの差別問題を関連付けるような授業をする。

【コラム】理論と実践の接点

〇〇君のように、生徒自身に調べ学習を行わせて、知識を生徒同士で補い合う方法は、近年の授業改革の中でも注目されています。（〇〇君の授業とは少し異なりますが、）「ジグソー法」などはその主たる例です。ただ、例えば「ジグソー法」に関しては、単なる知識習得の効率的な手段としてではなく、生徒と生徒の差異・多様性を包み込むような、多様な生徒が協同する授業方法、学級運営の方法として提案された点は注目されます。

また、総合的な学習を中心に、「探究」が授業改革全体で重視されつつあります。その中で、生徒が「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・発表」の四段階のプロセスが良く紹介されます。この際に、情報収集をうまく促すためには、「課題設定」がとても重要とされており、4プロセスの中で課題設定に多くの時間をかける事例も見られます。〇〇君の授業ではこのプロセスをもうちょっと強調したかったかもしれません。

最後に、今回の授業のように、「平等」という答えのない問いを扱う授業においては、分析をする枠組みが重要になる可能性があります。その点、近年の学習指導要領で言われる「見方・考え方」とも関連します。例えば平等という概念を捉える場合、「形式的平等・実質的平等」の二分類の視点から各問題を取り扱ったり、公正概念を使って「機会の公正さ」「結果の公正さ」などを視点から論じるなど、工夫の余地があるかなと思います。

【参考文献】

- (1) エリオット・アロンソン他著『ジグソー法ってなに？みんなが協同する授業』 (2) 田村学他編『「探究」を探究する』 (3) 橋本康弘編『高校社会「公共」の授業を創る』